

シンポジウム

③ 大学病院における鍼灸の現状

福島県立医科大学会津医療センター附属研究所

漢方医学研究室 鍼灸部・漢方外科 教授 鈴木 雅雄

大学病院における鍼灸については、各大学病院において鍼灸を導入している施設はあると思いますが、各施設で特色や違いがあるため、本シンポジウムでは本学における鍼灸の現状を述べます。

会津医療センターは2013年5月開院の10年目を迎える施設であり、広大な会津圏内を管轄しており、診療科は25科、病床数226床である。さらに、医大としての機能を有していることから、よく言われる「臨床」、「教育」、「研究」の3本柱で実施しています。

シンポジウムの時間の都合上、臨床面を中心に報告を致します。

臨床に関しては10年で約8万件の処置を行っており、扱う愁訴は約半数が疼痛症状です。一方で、大学病院という性質と医療センターという施設の特色から難治性の愁訴や希少疾患の紹介も認められます。また、施設特性として緩和ケア科専用病棟も有していることから、当科では緩和ケア科からの紹介が最多であり約3割を占めています。当科の臨床的特徴は2つあり、1つは中医学をベースにした鍼灸治療を展開していることと、EBMやメカニズムに基づく治療を重視しています。先に述べた、難治性の愁訴や希少疾患などを紹介されるケースもあるため、参考にする書籍や文献が中医学では豊富なためです。また、教育面では医学部生、研修医、鍼灸研修生がいますので、EBMやメカニズムを中心に臨床を展開することで、卒前卒後での理解の幅が広がっていると感じています。

研究面では鍼灸に関する研究を様々実施しており、特に各診療科とのタイアップで臨床研究を実施しています。